

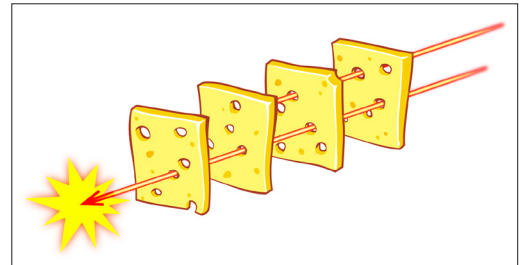
1 ● 見落としを防ぐキホンのキ

A：校を重ねる *スイスチーズ・モデル

初校→再校→三校……念校→校了（責了）
繰り返し読む

B：文字に集中する

目だけで文字を追わない ☞ 指で文字をなぞる
プリントアウトする
一人読み合わせ校正



【スイスチーズモデル】

イギリスの心理学者ジェームズ・リーズンが提示した組織事故の発生メカニズム

C：目を変える

複数の人間の目を通す
1人の人が、時間や場所などシチュエーションを変えてチェックする
表示を変える
読む時間と場所を変える

2 ● 言葉を異化する

A：一人読み合わせ校正

しらとりキッズ・フェアは、今月二〇日まで。

担当：白河までお問い合わせ下さい。

↓

しらとり {かな} キッズ {カタカナ} {中黒} フェア {カタカナ} は {点} 今月二〇日 {ニーマルにち} まで {丸}

担当 {コロン} 白河 {白いかわ、かわは“さんずい”} までお問い合わせ {「い」「わせ」送り} 下さい {「くだ」漢字} {丸}

B：読み換えていくほど漢字はわかる

① 非情 {情けに非ず} の時には必ず窓を解放 {解き放つ} しましょう。

↓

非常 {常に非ず}

↓

開放 {開け放つ}

② リラックスした新人の隣でベテランの堅い {「堅実」の堅} 表情が対称的 {シンメトリー} だった。

↓

硬い {「硬質」の硬}

↓

対照的 {コントラスト}

* 【固い】固体 【堅い】堅実 【硬い】硬質

C：カタカナ語、外国語表記に立ち止まる

D：約物（記号類）に立ち止まる

カッコはペアで 「 」 () 《 》 “ ”
段末には「。」を
代用はカッコ悪い ー ⇨ — < > ⇨ 〈 〉 X ⇨ ×

3●ありえない間違いがありうる

タイトル、見出し、人物名
著者名、奥付など

4●蟻の目、鷹の目を持つ

1 度目は細部に注意を払い、2 度目は全体を見渡す
テーマを持って校正する……固有名詞、カタカナ語、数字、見出し、etc.

5●自分に酔わない

よく書けている所ほど要注意
自信のないところは人に意見を求める
差別表現は一人で判断しない

6●誰のため／何のための校正か？

書いている自分のためではなく、読者のためを考える
具体的な読者の顔を思い浮かべる

◀ オススメ国語辞典 ▶

小型 大修館書店『明鏡国語辞典』（第2版） 三省堂『新明解国語辞典』（第7版） 三省堂『三省堂国語辞典』（第7版）
中型 小学館『大辞泉』 三省堂『大辞林』 岩波書店『広辞苑』
大型 『精選版 日本国語大辞典』
web ジャパンナレッジ (Personal) <http://japanknowledge.com/personal/> *有料
コトバンク <http://kotobank.jp> *無料 Weblio <https://www.webl.io> *無料

①校を重ねる／目を変える

……フィルターを何重にもする。複数の人が見る。時間や場所を変えて見る。

②文字を目だけで追わない

……指先やペン先で文字を1つずつなぞるように確認していく。

③蟻の目、鷹の目。木も見て森も見る

……1度目は細部に注意を払い、2度目は全体を見渡す。ミクロとマクロ、常に2つの視点を。

④引っかけたところをそのままにしない

……辞書を引く手間を惜しまない。人にたずねる。あきらめない。

⑤偉い先生でも遠慮はかえって失礼

……疑わしきは罰する。すべては“まちがいのない、よりよい本”のために。

⑥相手に伝わりやすい校正を

……赤字や疑問出しは明快・簡潔、相手に失礼にならないように。情報の共有。

⑦いろんな可能性を考える

……複数の辞書や資料にあたる。答えは1つと限らない。単純な誤植も原因を想像する。

⑧ムリは見落としのもと

……精神主義や根性では校正はできない。疲れたり体が固まってきたら、意識的にひと息つく。

⑨だいじょうぶと思わない

……あらゆることに用心する（不安や不信に駆られることとはちがう）。思いこみと過信に注意。

タイトルや見出し、著者名など目立つ大きな文字も要注意。

⑩正しい日本語はない

……言葉は“生き物”で“生もの”。辞書や参考書は言葉を理解するひとつの体験。

⑪ひとりで判断しない

……とくに差別表現や性表現、プライバシーや権利関係、著作権。

⑫ディスプレイでの校正は見落としのもと

……面倒でも紙に出力して読む。

● 大西寿男（おおにし・としお）

1962年、神戸市生まれ。1988年より、岩波書店、集英社、河出書房新社、メディカ出版などの外部校正者として、文芸書・人文書から実用書や新書・専門書まで手がける。また、一人出版社「ぼっと舎」を開設、編集・DTP・手製本など自由な本づくりに取り組んできた。

企業や大学、カフェなどで校正セミナーやワークショップを開催。技術だけでなく、校正的な考え方や心がまえも教える。2016年、ことばの寺子屋「かえるの学校」を共同設立。

【著書】『校正のこころ』（創元社）、『校正のレッスン』（出版メディアパル）、『セルフパブリッシングのための校正術』（日本独立作家同盟）、『これからのメディアをつくる編集デザイン』（共著、フィルムアート社）ほか